

第18回教育委員会会議

1 日時 平成30年8月7日 火曜日 午後3時30分～午後5時30分

2 場所 大阪市役所屋上会議室

3 出席者

山本 晋次 教育長

林 園美 教育長職務代理者

森末 尚孝 委員

巽 樹理 委員

平井 正朗 委員

大竹 伸一 委員

内藤 和彦 教育次長

花田 公絵 旭区長兼区担当教育次長

大継 章嘉 教育監

金谷 一郎 顧問

多田 勝哉 総務部長

野嶋 敏一 教育センター所長（義務教育諸学校教科用図書選定委員会委員長）

石川 文子 宮原中学校長（義務教育諸学校教科用図書選定委員会副委員長）

水口 裕輝 指導部長

盛岡 栄市 中学校教育担当課長

柘原 康友 高等学校教育担当課長

大西 忠典 首席指導主事

井上 省三 教務部長

松田 淳至 教職員人事担当課長

栗信雄一郎 教職員人事担当課長代理

川本 祥生 教育政策課長

橋本 洋祐 教育政策課長代理

ほか各高等学校長、指導主事、担当係長、担当係員

4 次第

(1) 教育長より開会を宣告

(2) 教育長より会議録署名者に異委員を指名

(3) 案件

議案第72号 平成31年度使用教科用図書の採択について(高等学校)

議案第73号 平成31年度使用教科用図書の採択について(中学校)

報告第9号 大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画について

報告第10号 校長公募にかかる第1次選考の合格者の決定について

協議題第13号 普通科系高等学校の再編整備について

なお、報告第9号及び協議題第13号については会議規則第6条第1項第5号に該当することにより、報告第10号については会議規則第6条第1項第2号及び第5号に該当することにより、採決の結果、委員全員異議なく非公開として審議することを決定した。

(4) 議事要旨

【山本教育長】 本件については、去る7月24日の教育委員会会議で選定委員会及び選定調査会から答申を受け取りました。この答申を参照しつつ、厳正かつ公正に採択に向けて審議してまいりたいと思います。

議案第72号「平成31年度使用教科用図書の採択について(高等学校)」を上程。

水口指導部長からの説明要旨は次のとおりである。

教科書採択の基本方針について説明する。学校が使用する教科書は、文部科学大臣が教科用図書検定調査審議会の答申に基づき検定を行っている。今年度、本市高等学校で使用する教科書については、「平成31年度使用 高等学校用教科書目録」に掲載されている全795種831点より選定し、採択することとされている。採択の流れとしては、「大阪市立高等学校教科用図書選定調査会要綱」に基づいて各学校に設置された教科用図書選定調査会により作成された答申書を踏まえ、教育委員会で採択することとされている。

事務局としては、教育委員会の指示に基づき調査を進めてきた結果、各校の選定調査会が、教育委員会の定める選定実施要領に基づき公正確保に努めたうえで、すべての教科書選定が疑義なく適切に行われたものと考えている。

柘原高等学校教育担当課長からの説明要旨は次のとおりである。

各校の選定調査の概要について説明する。普通科系高校では80%以上が大学などへの進学希望であるため、教科書選定については知識の定着、論理的思考力の育成に適していること、自学自習にも役立つ内容であることなどを重視し選定している。例えば、東高校には普通科、理数科、英語科が設置されており、国際的な視野を持つ人材や、科学技術の基礎を身につけ、将来の科学者・技術者をめざす人材を育成するための取組みを進めている。例年80%を越える生徒が大学に進学しており、生徒のニーズに応じた補習を行うなど、きめ細かな進学指導を行っている。教科書選定にあたっては今後必要となる知識・技能をはじめ、次期学習指導要領や大学入学共通テストの内容等に関する研究を進め、思考力・判断力・表現力の育成を重視している。

商業系の高校では社会的・職業的自立をめざす生徒が多いことから、社会人基礎力の習得や資格取得に通じることも選定の観点に取入れ、それぞれの分野におけるスペシャリストの育成をめざしている。例えば鶴見商業高校では就職を希望する生徒が多く、販売実習や生徒による学校PR誌の作成など特色ある取組みを進めており、商品開発などの実践を通して、社会人基礎力の育成に取り組んでいる。生徒が難しいと感じる内容に対して、理解しやすく親しみやすい工夫がなされているか、という観点に加え、生徒が自己実現に向けて主体的に学習できる構成を重視し、選定している。

工業系高校では、学校全体で取組むキャリア教育を通し、社会人として必要となる知識や技能について指導している。基礎学力の定着を図るとともに、各学科における専門的な学習内容を理解し、身につけるため、生徒の実態やニーズに合わせた「わかりやすい授業」づくりにつながる点を重視している。例えば、生野工業高校では機械科、電気科、電子機械科が設置されており、電気工事士をはじめとする資格取得やソーラーカーレース等の各種大会に出場するなど生徒の学習意欲を高めるための取組みを進めており、「ものづくり」を通した実学教育により、社会で活躍できる技術者の育成をめざしている。教科書については、高校ではじめて学ぶ専門的な内容に対し、生徒が興味関心を持って取組むことができるのか、という観点を中心に選定している。

昼夜間単位制の中央高校では、生徒一人ひとりのニーズやライフスタイルに合わせた学習ができるよう、生徒の興味・関心を広く受けとめ、多様な進路希望に対応できることを重視している。

工業系定時制高校は、幅広い年代の多様な生徒が在籍しており、専門性が求められる一方で、基礎的な知識の学び直しが必要な場合もある。したがって、このような生徒のニーズに適した幅広い学習に生かせる内容であるか否かにも注視している。

水都国際高校ではグローバル探究科が設置され、国際社会でリーダーシップを発揮し、活躍するとともに、将来の大阪の経済成長をけん引する人材を輩出することをめざしている。1年次は、全員が必修科目を中心に同じ科目を学ぶ。選定された教科書は発展的な内容が多く取り上げられており、学習をより深める内容であるかとの観点を重視している。

質疑の概要は次のとおりである。

【山本教育長】 ただいま、事務局より平成31年度使用の高等学校の教科書の採択について説明がありました。また、各校それぞれの選定調査会が、選定要領に基づき、公正確保に努められたうえで、教育委員会の示した観点により、各校の生徒の実態に合わせて、選定が適切に行われたことについても説明がありました。

本日は、各校の選定調査会委員長に同席をお願いしていますので、各校の選定に関して、何かご質問、ご発言があればお願いします。

【大竹委員】 これまで選定された方については、本当にご苦労様でした。質問については、様式3-Aで教科書2冊のうちから選ばれた理由について、桜宮高校の数学Ⅲについてうかがいたいと思います。

【森口桜宮高等学校長】 数学Ⅲにつきましては、数学Ⅰ、数学Ⅱについて平成29年度、平成30年度と数研出版を採択いただいております、同シリーズであるということで、継続性を持った学習が可能であるということがあります。また、本文中で扱われている問題のタイプが充実しています。研究、発展というコーナーではさらに高度な内容が扱われており、大学入試に対応できる学力が育成できると考えています。また、例題とその解説が充実した内容となっており、センター試験や大学入試共通テストに対応できる基礎学力の定着を図ることができると考えています。代表的な関数のグラフがよく取上げられていますので、グラフの書き方についても詳しくまとめられています。生徒が視覚的に理解することができることから、数学Ⅲにつきましては数研出版を選定しました。

【平井委員】 要望だけいくつかあります。普通科、工業科、商業科など、スクールコンセプトが違ってくると当然選ぶ教材も違ってくるのは当たり前ですが、私は、現場の教師が選んだ教科書が最良のものだと思っています。ただ、どういう指導を展開するのかという意味でシラバスの精査をしっかりといただいて、そして、保護者や生徒に対して、どういう教育をするのかを明示できるような体制を組んでいただきたいと思います。基本的には現場の先生が選んだテキストが一番いいと思っていますが、大事なことは選んだテキストをどのように使って生徒に伸びの実感を与えるのかということです。保護者の目線から見たときに、社会に開かれた教育課程は何なのかを踏まえて、シラバスをきちんと精査していただきたいと思います。そのシラバスについても公開できるものにしていただきたいというのが要望の一点です。

もう1つの要望は大学進学です。大学への進学者が多い学校について言えば、現在の高校1年生はセンター試験がなくなって大学共通テストになります。例えば今までの過去数十年の入試問題は正解が1つというのが基本でした。それがここ数年のセンターを見ても正解が1つとは限らない納得解を要求するような問題も入ってきています。ですから評価方法をよく考えてほしいのです。特に大学進学に重きを置く学校については、現高2、現高3についてはセンターをそのまま使うから旧カリキュラムになりますが、入試問題に新カリキュラムの内容も若干入ってきていますので、十分に検討して指導を展開していただくようお願いしたいと思います。

もう1つは、現在の高1は、センターがなくなり大学共通テストにかかわると、まさに新カリキュラム対応になります。そうすると評価方法をしっかり考えないといけません。その評価方法は、生徒の日々の学習面での行動履歴とか学習履歴などを十分に評価できるような内容を考えていただきたいと思います。

【山本教育長】 ありがとうございます。また要望を踏まえ、選定された教科書をもとにきちんと指導を行いたいと思います。他にご意見やご質問などありますか。

【森末委員】 扇町総合高等学校の校長先生にお聞きしますが、今回、再編の計画が進むことになっていますが、そのことを踏まえて今回の教科書選定について何か配慮されたことがあればお伺いしたいと思います。

【筒井扇町総合高等学校長】 本校は系列が6つあり、それぞれに多様な生徒が入学してきます。現在は進学が8割、就職が2割となっており、基礎的なところから発展的な学習にかかわっての教科書採択に心がけています。新校についてのコンセプトは、まだ決ま

っていませんので、教科書採択については従来通りの扇町総合高校の系列の特色を踏まえたうえで採択をしています。

【山本教育長】 教育委員会としては、各学校の選定調査会からの答申を拝見しながらこれまで協議を進めてきたところですが、先ほどの説明によって、事務局における教科書の調査研究や、答申の内容についても、各校の学科等の特色や生徒の学習状況等に応じて、現場において十分に検討され選定されたものであると確認できたと思います。したがって、平成31年度使用の高等学校の教科書について、調査研究の結果として、まとめているとおり採択するということで、ご異議ないでしょうか。

採決の結果、委員全員異議なく、原案どおり可決。

議案第73号「平成31年度使用教科用図書の採択について(中学校)」を上程。

水口指導部長からの説明要旨は次のとおりである。

大阪市立中学校における平成31年度使用教科用図書については、執行機関の附属機関に関する条例に基づき設置された大阪市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会の厳正かつ公正な調査・研究を経た答申を参照し、審議の結果、採択いただくこととしている。なお、平成31年度使用教科用図書の採択については大阪市内で1採択地区とし、「特別の教科 道徳」について1者の教科書を採択いただくこととしている。

本日は、咲くやこの花中学校及び水都国際中学校を除く中学校129校及び咲くやこの花中学校及び水都国際中学校の「特別の教科 道徳」、水都国際中学校の「特別の教科 道徳」以外の全教科の採択をいただきたい。

野嶋選定委員会委員長からの説明要旨は次のとおりである。

教科用図書選定委員会は、教育委員会から平成30年5月に平成31年度使用中学校教科用図書の選定について諮問を受け、大阪市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会規則に基づいて、公正確保に留意しながら適正に教科用図書の調査・研究を進めてきた。今回は「特別の教科 道徳」の8種・30点について、専門調査会、学校調査会の調査・研究の報告をもとに、教科書展示会のアンケートも参考に審議を進めた。選定委員会の第1回では、選定のための計画の立案、調査を進めるための調査の観点の作成等を行い、第2回、第3回では、審議を行った。今回、初めて道徳が教科となることから、「特別の教科 道徳」の教科書について、道徳的諸価値の理解を深める教材の充実と生徒・教員にとって深い学びに

繋がる構成の2点が大切であるという、調査にあたっての基本的な考えを共有した。また、水都国際中学校で使用する「特別の教科 道徳」以外の全教科の15種・129点については、学校調査会の調査・研究の報告のもとに、審議を進めてきた。これら各調査会の調査結果をもとに、保護者代表、学校協議会委員代表、学識経験者代表、学校代表、区担当理事代表、教育センター代表とそれぞれの立場から、議論を重ね、公正確保の観点を最重視して答申を作成した。

質疑の概要は次のとおりである。

【山本教育長】 ありがとうございました。教科書採択については、一昨年度に、市会で採択された教科書採択方式の改善に関する陳情書、また、大阪市外部監察チームの報告書及び市会での議論を通じまして、検討すべき課題が出てきたため、昨年度の採択より、運用面の改善を図っています。今年度についても、昨年度同様、オープンな場での丁寧な議論を確保する観点から、義務教育諸学校教科用図書選定委員会への諮問について、公開の教育委員会会議において、諮問の理由を付して諮問する形で行い、本日の議案においても、選定委員会からの答申資料を添付して公開の上、採択の審議を行うこととしています。また、昨年度同様、選定委員会委員や調査員、私と教育委員について、教科書の採択に直接の利害関係を有する者ではない旨を誓約する書面の提出も行っています。また、会議の傍聴について、静ひつな環境を確保しつつ、本日、傍聴規則に基づき、会場の定員も考慮しながら、可能な限り傍聴希望者の皆様方に直接傍聴をいただく形をとっています。

今回、咲くやこの花中学校及び水都国際中学校を含む中学校道徳の教科書及び水都国際中学校の道徳以外の全教科の教科書採択において、教育委員会は、選定委員会の厳正かつ公正な調査研究を経て「特に優れている点」と「特に配慮・工夫を要する点」を記した答申を参照し、並行して私ども教育委員が実際に教科書見本を手にとって、自ら調査研究を行い、事務局からの専門的な助言や情報提供を受けながら検討を進める形で、調査研究を進めてまいったところでございます。その上で、本日の審議におきまして、教育委員会の判断と権限のもとで、採択を行ってまいりたいと考えています。

本日は、選定委員会委員長と、選定委員会副委員長である現場の校長先生にも同席をお願いしています。

採択の順について、まず、咲くやこの花中学校及び水都国際中学校を除く中学校129校で使用する道徳教科書について採択を行ったのち、咲くやこの花中学校及び水都国際中学校

で使用する道徳教科書について採択を行うこととします。最後に、水都国際中学校で使用する道徳以外の教科書について採択を行ってまいります。

まず、129校の中学校における道徳の採択を行います。先ほどの説明を聞いたうえで、答申の内容や、学校現場から見た意見などについて、何かご質問意見等ありましたらお願いします。

【林委員】 先ほど選定委員長の説明がありましたが、選定委員会で調査を行うにあたっての基本的な考えとして、道徳的諸価値の理解を深める教材の充実と、生徒・教員にとって深い学びに繋がる構成の2点を大切にして審議前提にあたったという説明がありました。中学で道徳の授業を実施するのは、来年度が初めてになります。道徳的諸価値の理解は難しい言葉だと思いますが、生徒にとってみると、例えばルールを守ることの意味であったり、自分の周りの人との付き合い方であったり、友達、先生、親・両親、近所の大人がいたり、いろいろな人たちとの付き合い方、その時の言葉の選び方であったり、どういう風に接していくのかを先生と共に考える機会を、授業を通じて持つことができるのは、非常にいいことであると思います。また、そういう機会を持つことで生徒自身の心、自分の気持ちにも向き合うことができ、周りの人たちの気持ちにも向き合い、また自己肯定感や自己有用感が全国の子どもたちに比べて低いのではないかという大阪市の課題があるという認識もしていますので、そこをきちんとフォローして育てていくような授業になるための教科書をとという観点で、今回の審議に私自身も向き合ってきました。

はじめて教科として道徳を学校の先生たちが教えるということになりますが、一点のポイントとしては、教える側の先生たちの教えやすさというものがポイントになると思います。あと、もう一点、生徒側が受け入れやすい、自主的に学習しやすい教科書であるかどうか、ということもポイントではないかと思っています。

最初に先生たちが授業で使うにあたって、選定委員会として、具体的にどのような教科書が良いと考えるのか教えていただきたいと思います。また、大阪として教育振興基本計画の観点に根ざした教科書とは、どのようなものであるかも教えていただきたいと思います。

【石川宮原中学校長】 現場の校長としてお答えします。一概には言えませんが、子どもを観点としたところでは、まず内容として生徒が引き込まれるような内容が一番ではないかと思います。いわゆる心が揺さぶられるというような状態、それが深い学びにつながるものと考えています。大阪市の子どもや先生の実状を第一に考えますと、教材ごとに生

徒への発問がある方が、より深い学びにつながるのではないかと考えています。その方が教科書として使いやすいと考えています。また、教育振興基本計画に根ざした教科書ということでは、例えば子どもが安心して安全な学校と言える視点で考えますと、いじめの防止や、SNSなどを関連した情報モラルの視点があると思います。

【野嶋選定委員長】 学校調査会や専門調査会の結果を踏まえた選定委員会の意見としてはどの発行者も優れていますが、教材としては、「あかつき」、「学研」が優れており、構成面では「日文」が優れていると思っています。

【山本教育長】 ありがとうございます。他にご意見ご質問があればお願いします。

【異委員】 事務局に質問したいと思います。大阪市の教育施策で最重要目標としている一つが「子どもが安心して成長できる安全な社会の実現」ですが、時代の流れで、昔と比べ中学生のスマホの所持率がとても高くなっていて、SNSによるトラブル、いじめの問題が、われわれの知らない範囲でも、とても深く大きくなっている気がします。そういったSNSやいじめの問題について、特に丁寧に取り扱っている教科書が、一番中学生をターゲットにして道徳を学べる教科書と思っています。その観点では、各者いかがでしょうか。

【盛岡中学校教育担当課長】 事務局で調べたところ、いずれの教科書についても共通してSNSやいじめの問題については取り上げていると認識しています。同じ教材であっても、教科書によって、いじめであると指定している教科書もあれば、違う教科書もありますので、数では一概に言えないと思っています。他の発行者と比較してここが一番いじめやSNSの観点を取り上げられているというのではなく、いずれの教科書でも取り上げられていると認識しています。

【異委員】 例えば、より身近な問題が多い発行者など、数などで具体的なものはありますか。

【盛岡中学校教育担当課長】 事務局の中でも数も調べてみて、教科書の目次等の中から選んでみましたが、一つの教材の扱い方によって変わってきますし、どの教科書もいじめやSNSの教材が入っていますので、あとは活用の仕方の問題であると考えています。

【森末委員】 先ほど選定委員長の方から、選定委員会の意見として、教材としては「あかつき」「学研」がいい、構成では「日文」が優れていると言われましたが、現場の教員の方が、授業しやすい、展開しやすいという点では、どの教科書が優れているのですか。

【盛岡中学校教育担当課長】 現場の教員の授業のしやすさというところで見ましたと

ころ、どの者も甲乙つけがたいところはございますが、答申の総評欄には「日文」と「あかつき」が工夫されているのではないかと記載されています。

【野嶋選定委員長】 今の事務局の説明に付け加えますと、各教材の末尾にある設問がより適切に設定されているもののほうが、教員にとって授業を深めやすく、生徒にとっても深い学びにつながるように思っています。この点において、本当にどの教科書もよくできており甲乙つけがたいですが、やや「あかつき」の教科書がより工夫されていると思います。

【山本教育長】 他にありますでしょうか。

【林委員】 先ほど私の質問に対して、校長先生の回答の中に、生徒が引き込まれるような内容が充実した教材が多く取り入れられているほうが、深い学びにつなげることができるのではないか、という発言がありました。実際に、自分が教科書を見ていて、素材の提示の仕方が教科書によって個性があると感じています。素材の提示の仕方というのは、要は生徒がとっつきやすい教科書になっているかということですが、文字が多くて国語の教科書のように教材が提示されている教科書もあれば、子どもに合わせてイラストや漫画や写真をうまく配置して、視覚優位かもしれませんが、子どもたちが理解しやすいようにつくられている教科書もあり、それぞれ個性があると感じています。

生徒が主体的に学習できる構成というのも、選定のポイントだったと思います。例えば「外的要素に関する観点」として、生徒に親しみやすくできているか、さし絵や写真、色づかいやユニバーサルデザインのことなどについて書かれています。また、「資料その他に関する観点」では、さし絵や写真、図表など生徒が興味を持ち、学習意欲を引き出すように工夫されているかという観点があります。どこの観点を重視するかというのはそれぞれ意見があると思いますが、その観点で見たときに良いと思われる教科書はどれになりますか。

【盛岡中学校教育担当課長】 的確な答えかわかりませんが、見た目や、子どもたちの価値観などから惹かれるだろうと思われる教科書は、「学研」ではないかと思います。また、文科省の教材や、道徳の教材として長く読み継がれてきた名作、感動教材が多い教科書で言いますと「あかつき」ではないかと思います。

【林委員】 ありがとうございます。昨今、テレビやSNS等で話題になっていますが、子どもが学校へ持っていく荷物が非常に重いというトピックがあったと思いますが、教科書を選ぶ一つの観点として、重さがあると思います。昨年度から言っていましたが、それ

ぞれの教科書に実際の重さの違いがあるのかということと、教科書の持ち帰りの扱いについて、学校現場ではどのようにしているのか教えてください。

【盛岡中学校教育担当課長】 まず、重さにつきまして、事務局で調べましたところ、「学図」と「あかつき」が少し他社と比べると重いと思っています。ただし、教科書の取り扱いについては学校判断ではありますが、学校の事情に応じて教科によっては学校に保管していることもあります。学校によっては学校に保管して置くものもありますので道徳についてどうするのかは、学校判断によると思います。また、教科書会社によっては別冊がついていますが、別冊のみを置いておくという工夫もできていると思います。

【石川宮原中校長】 教科書は基本的には持ち帰りを基本にしています。各学校の判断ですが、教科によって使用状況を踏まえて学校に置いているケースもあると伺っています。本校では教科書の持ち帰りを基本としていますが、例えば副教材などは教科担当の判断で置いている場合もあります。

【林委員】 持ち帰りを基本にしている理由を教えてくださいたいと思います。

【盛岡中学校教育担当課長】 自学自習の観点から、教科書を持って帰らないと宿題ができない、教科書を基に家で学習することが基本であることが理由の一番だと思いますが、先ほどの校長先生の話にもありましたように、学校ごとの判断で、一部の教科書を学校に置いているケースもあります。

【林委員】 ありがとうございます。まさにそうだと思います。生徒が今日はこの勉強をしないといけないと思ったら、持って帰って勉強するのが基本だと思います。学校の中でのルールについても、中心にいるのは生徒ですので、生徒たちが考えて、先生たちも意見を出して、双方が納得してルールを作っていくということも、今後、中学校で行われてもいいと思います。学習に対しての生徒の意欲を作っていくこともとても大事ですし、そこに自主性があると思います。

重さに関しては、今回の選定にあたって、特別に配慮しなくていいと理解しましたが、それで大丈夫でしょうか。

【盛岡中学校教育担当課長】 はい。

【大竹委員】 林委員と重なりますが、生徒が引き込まれやすい、とっつきやすいという意味では、漫画やイラストはそういう要素があると思います。ただ、文章を読んで自分で想像して、考えを膨らませるという意味では漫画でないほうがいいという気もします。道徳という答えのない多面的にものを見ることができる教科において、教える側の教員は、

イラストや漫画があるもののほうが教えやすいのか、それとも文章の中からいろいろな状況を自分自身で思いを膨らまして議論するほうがやりやすいのか、どちらですか。個人的な見解で結構なので、わかる範囲で教えていただきたいと思います。

【盛岡中学校教育担当課長】 子どもが興味関心を持つという観点からいいますと、イラストや漫画が多く取り上げられていれば、ぱっと見て意欲が湧くかもしれません。そういう意味では先ほどの「学研」はそういう部分が多いと思います。一方で、授業展開していくときにどうかというご指摘につきましては、大阪市では非常に若い先生が増える中で、指導力の差が出てくるかもしれません。そこを共通した教材の中でしっかりと教材研究して、若い先生であってもベテランの先生であっても同じような形で進めていくという意味では、慣れ親しんだ教材を学校の中で研究してどの学年もしっかりと学習を進めていく観点で、授業を進めるべきではないかと個人的には思います。

【水口指導部長】 漫画やイラストのほうが、内容が頭に入りやすい子どもたちもいますが、そればかりでいくと、どうしても固定観念で頭が固定されてしまうことがあります。それはプラスとは言いづらいと思います。学校の状況によっても違いますし、子どもたちがどの程度の読書をしているのかなど、様々な違いもありますので、そのあたりを踏まえたうえで今の大阪市の子どもたち、大阪市の先生方にとって、どの教材どの教科書がいいのか、と考えていくと、やはり漫画もひとつですけれども、それで固定されてしまうのはどうかと感じます。

【山本教育長】 教科書選定以外のことでも質問があればお願いします。

【平井委員】 教える側のポイントとして、導入と展開、まとめがあります。焦点になってくるのは展開とまとめになると思われます。私は現場の先生が選んでいるものが全てだと思っていますが、ただ、現場の教員でも温度差があります。導入、展開、まとめの展開で、いわゆる思考力と判断力と表現力の部分はなかなか評価をつけるうえで難しいと思いますので、事務局が中心になって具体的なティーチングメソッドを考えて、十分に使えるようにしてほしいと思います。

結局、現場で教えるときにどの教材を持ってきたとしても、どうやって展開するか、まとめをどうするか、そのベースに何が来るのか、大阪市の場合であれば教育振興基本計画があるから、安心安全が入ってきます。新学習指導要領を考えると思考力と判断力と表現力を考えます。この両面をうまく落とし込んで指導できるようなメソッドを提示することが大事です。

5教科のようにある程度結論が見えているものは展開しやすいですが、このように納得解を求める教科というのは、非常にまとめ方が難しいです。そして現場に「このテキスト使ってください」といった時に、温度差が生じたときに子どもにとってそれがプラスかマイナスかといったら自明です。展開とまとめ、思考力、判断力、表現力というものをもっと絡めて提示していくのが大事だと思いますので、よろしくお願いします。

使う現場の先生が使いやすく、使った結果として相乗効果が生まれるようなシラバス化がキーポイントだと思いますので、よろしくお願いします。

【山本教育長】 ありがとうございます。ほかにご意見ご質問、ありませんか。それでは、各委員に目も通していただき、様々なご意見を伺ってまいりました。それらを総合して各委員の方で選定にあたっての具体的なご意見をお願いするような場面になってきたと思います。それぞれの委員で優れていると思う教科書につきまして、理由も合わせてご意見をいただきますようお願いしたいと思います。特に順序もございませんので、大竹先生からお願いします。

【大竹委員】 どの教科書もそれぞれ特長があって優れていると思いますが、私自身が考えている観点は、一点目は生徒が自ら興味を持って考えるような工夫をされているということです。二点目は、考えるうえで言葉というのは消えてしまうので、どこかで書きとどめることが非常に大切だと思います。自分の意見を書きとどめて、話をして、また人の意見を聞いて、また自分の考えを直すためには、書くことをスムーズに導入しやすいような教科書というのを、選定の二番目の観点としています。三点目は、指導に当たる先生方が使われるうえで、使いやすい、教えやすいということが一番大事だと思います。三点目は先生方の話なので最後にまた決めればよいと思います。

先ほど言いました一点目の観点からは、私は3つの教材を挙げます。1つは「学研」ですが、ここは幅広いテーマを取り扱っていて、生徒が主体的に問題意識を持って自分自身で課題を発見するように工夫がされているという感じがします。また、道徳的な事例も、あるいは立場によって考え方が異なるようなテーマがありますから、そういうようなテーマについては他者の意見を聞いて、自分の考えを述べるという面で課題的な意識が増える工夫がされているのが、この「学研」だと思います。

それから「あかつき」の教科書ですが、学習の手がかりとか考えを広げる、深めるような欄もあり、生徒や教師が対話的に学びができる工夫がされていると思います。特に別冊の資料として使える道徳ノートによって、自分の考え方をうまく書くような導入の工夫が

されています。

それから「日文」ですが、これも別冊の道德ノートということで自分の考えをはっきりさせる書く要素が自然とできる工夫がされています。また、「自分にプラスワン」という項目によってより深く学べるができると思います。

先ほど言いました一番目二番目の観点から、この3つの発行者を挙げましたが、道德は他の学科以上に、教える教師の教材の使い方も変わってくると思いますので、最終的には教師が使いやすい教科書を選定することが肝要かと思います。

【山本教育長】 ありがとうございます。できれば一つに絞っていただければありがたいのですが。

【大竹委員】 それでは、「学研」と「あかつき」のふたつを挙げさせていただきたいと思います。

【平井委員】 私は、学年進行に伴って教育効果が上がるという、つまり思考力と判断力と表現力、これが段階的にできるものが何かということと、もう一つは安心安全という部分を見ますと、具体的にいうと「あかつき」か「日文」の教科書になります。あえて、もし一冊に絞れというのなら、私は第一に「あかつき」を、第二に「日文」としたいと思います。

【巽委員】 私も第一に、現場の先生が使いやすい教科書が一番だという観点から、現場の先生を含んだ選定委員会の意見を考慮したうえで選定しました。やはり教員が使いやすいということは授業が進行しやすいですし、授業力がアップしたら、生徒の理解もぐんとアップできると思うので、教員の立場と、先ほども説明した中学生の深刻な問題であるSNS、スマートフォン、いじめとどこまで丁寧に向き合っているのかというところで選びました。

具体的には、一番に「日文」を挙げます。いじめやSNSの観点だけで、いろいろな教科書を拝見したところ、中1の最初からいじめ問題を丁寧に挙げています。安心安全の観点では、例えば大阪では自転車に多く乗っていますので、その乗り方、危険性を丁寧に取り扱っているのがよかったと思います。また、別冊の書き込みで、より生徒の理解や考えを深く書き込むことで考察できるのではないかと思います。また教員も、数値では評価しませんが、コメントとしても別冊記入というものがあれば評価しやすいのではないかと思います。

2つ目に挙げたのが「学研」です。視覚的なもので、非常に親しみのあるイラスト、内

容、一番身近な最近な話題も取り上げていて、生徒の興味関心を引き出すものになると感じました。こちらの中1からSNS、いじめ問題、歩きスマホを挙げており、調査のデータなど、校正も非常によくできていたと思います。以上より「日文」と「学研」を挙げたいと思います。

【森末委員】 自宅に送っていただいた教科書を暇があれば読んでいまして、子どもに「また道徳読んでいるの」と言われながらこの暑い中を過ごしていました。やはり、皆さんが言われているように、各教科書とも特色があって、検定に通っているので水準上のものであって、読んでいて心が洗われる文章がたくさんありました。先ほど選定委員会からの説明で、「あがつき」、「学研」、「日文」が優れているとのことでした。私としては、そのなかで、読んでいけばいくほどやはり「あかつき」が最もよいと思います。理由の第一に、扱っている教材を読んでも引き込まれるということがあります。私も涙したことも何度もありました。さらに、最後の振り返りのところで、考えて話し合うというところの質問が的確です。多義的な教科書ですので、いろいろな教え方がありますが、教える側にとっては、この質問をベースに考えて行けばいいと思います。生徒もそれを見ればこのポイントは何か、そのポイントを見ればわかると思います。

「日文」は、「考えてみよう」とか「自分にプラスワン」がありますが、質問が少し少ないと思いました。「学研」については、1年生の教材で、文字が小さいところでマイナス点があったのと、末尾の質問がほとんどないので、その点もマイナスかなというところです。

全体的に「あかつき」については、内容がいいのと、文字に問題がないのと、別冊もあって書き込みができるのと、難点もなかったのと、私は「あかつき」を推したいと思います。

【林委員】 生徒が主体的に学習できる構成になっている教科書という観点で、私の中で一番大きな観点になっています。皆さんのお話も聞いていて、先生が教えやすいというものもそうだろうと思います。道徳という教科について、この前、子どもと話していて、「道徳には決まった答えがない。5教科では決まった答えがある。道徳はどんな意見を言っても受け入れてもらえて、そこで対話をしていく中で気づいていく教科だから、すぐ意見が言いやすい。」と言っていました。「5教科は手挙げて発表しても、間違えると恥ずかしい。でも、道徳はガンガン言える。」と言っていました。授業としてどう求めていくのか難しいところはありますが、本質的にはそのような教科だと思います。多様な意見を持っている人がいて、多様な考えがあって、小さな社会から大きな社会の中で、どうやって

みんながあまり嫌な思いをしないで暮らしていけるのかを探っていくのが、道徳の1つのポイントだと思ったりします。それは生徒だけではなく、先生も含めて考えていくのが大きな意味を持つのではないかと考えています。

思春期である中学生なので、子育ての経験からしてなかなか素直じゃない部分があって、特に道徳みたいな正しいものとバンと上から来られると、なかなか考えようとしなかったり、非常に難しい授業であったり、テーマであったりする部分もありますので、そういったことを考えると、やはり生徒が主体的に学習できる構成になっている教科書がよいと思います。その観点から行くと、一番は「学研」で、二番が「光村」でした。教材が深く、いい教材を取り上げているという観点で「光村」を挙げました。それにプラスして生徒が自分で学んでいくのにコラムのような形で提示されていたので、バランスがいい教科書ということで、「学研」と「光村」を挙げました。

意見としては、保護者として2つですが、「あかつき」も確かに教材としては非常に良かったと思います。種類も豊富で、幅が広く、先生たちがこれで、というのも納得できます。別冊もあって書くこともできますし、非常に良い教科書であると思います。

【山本教育長】 私は教育委員ではありませんので、全体をまとめる立場として、あえて申し上げますと、内容的に見て一定の水準をもっていますし、現場の声を踏まえて、「あかつき」を選定して、現場の方で新しい道徳の教育の流れをきちんと作っていただいて、一定現場に定着した中で、改めてそれぞれの特色を得て見ていくというのが、現場を総括しているものとして安心感が強いのかなというのが、率直な意見です。

ただ、基本的には、教育委員5名の先生方のご意見で決めるのが一番いいと思います。単純に点数化すべきものではございませんが、決定する必要がありますので、各委員の考えをまとめていきますと、大竹委員は、「学研」と「あかつき」は同じということで、0.5ポイントずつとします。そうしますと、私を除きましても、「あかつき」2.5ポイント、「日文」1ポイント、「学研」が1.5ポイントとなります。そうしますと一番得点が高いのが「あかつき」の2.5ポイントで、その他の教科書が2.5ポイントの同率になります。私は「あかつき」としていただきますので、同率の場合は最後は教育長の判断となっていますので、真摯にご議論いただいたうえで、現場の意見もございまして、この「あかつき」で初めて展開する中学校道徳というものを、現場で創意工夫を凝らして、現場で子供との対話をもっと深めていただくようお願いしたいと考えています。ただし、教育委員会は合議制の機関ですので、いろいろご意見もあると思いますが、これを教育委員の総意とす

ることによろしいでしょうか。

(異議なしの声)

ありがとうございます。それでは、委員会全体の総意として、中学校道徳は「あかつき」を採用するということでまとめたいと思います。

採決の結果、委員全員異議なく、咲くやこの花中学校及び水都国際中学校を除く中学校の道徳教科書について「廣済堂あかつき」の教科書を採択することを可決。

【山本教育長】 続きまして、咲くやこの花中学校及び水都国際中学校で使用する中学校道徳の教科書の採択を行いたいと思います。委員の皆様のご意見をお願いします。

【林委員】 中高一貫校である、咲くやこの花中学校と水都国際中学校の道徳についても、全市の中学校129校で使用している教科書と同じものを使っても問題ないと考えてよいのですか。

【盛岡中学校教育担当課長】 咲くやこの花中学校及び水都国際中学校の道徳につきましては、全市で同一の教科書を使用することにより、教員が教材研究の成果や内容を共有することができ、教員の指導力の向上を図ることができると考えています。さらに、市内で同一の指導案等を共有できるなどの効率化を図ることができると考えています。また、子どもにとっても、より研究された指導案等によって効果的な指導を受けることができるかと認識しています。咲くやこの花中学校も水都国際中学校も特色をもった学校ですが、同じ教科書を採択して問題ないと認識しています。

採決の結果、委員全員異議なく、咲くやこの花中学校及び水都国際中学校の「廣済堂あかつき」の教科書を採択することを可決。

【山本教育長】 最後に、水都国際中学校で使用する中学校道徳以外の全教科の教科書の採択を行いたいと思います。それでは、答申の内容など、何かご質問等はございませんでしょうか。よろしくお願いします。

【林委員】 来年度開校する全国初の公設民営の手法による中高一貫教育校である水都国際中学校の教育の特長とはどのようなものですか。また、そのような特長を踏まえたくて、現在大阪市129校で使用されている教科書で、水都国際中学校の教育の特長を生かす

ことに問題はないと考えてよいのでしょうか。

【大西首席指導主事】 水都国際中学校の教育の特長としては、公設民営学校として、運営団体の民間のノウハウを最大限活用しつつ、公立学校としての公共性を担保し、英語教育並びに自国の伝統文化に根ざした国際理解教育に重点をおいたカリキュラム編成を行うことがあります。英語教育に重点を置いた教育活動を展開し授業の中身としては、英語はもちろん、数学や理科の授業においても英語を用いたイマージョン授業を行うことを特色としています。

【林委員】 水都国際中学校ではイマージョン授業をするとのことですが、英語、数学、理科について大阪市の教科書を用いて大丈夫も問題はないのですか。

【大西首席指導主事】 水都国際中学校の運営団体及び本市職員によって構成された学校調査会において答申資料を作成しましたが、学校調査会からは、道徳以外の教科書については、現在129校で使用されている教科書がすでに平成27年度に教育委員会会議において採択されており、水都国際中学校の教育的特長を鑑みた際、十分にその特長を活かすことができる教科書であると聞いています。しかし、数学と英語に関しては学校調査会より意見をいただいています。

学校調査会からは、数学についてはオープンエンドな問題、つまり解答そのものではなく、解答までのプロセスが重視されているような問題が多く取り扱われており、課題探究型の学習を進めるという観点から「数研出版」の教科書がふさわしいのではないかと、英語については、生徒の発達段階に合わせた多様な題材が取り上げられており、グローバルな視野を育み、論理的思考力を育成するという観点から「三省堂」の教科書が授業を展開しやすいのではないかと、という意見を聞いています。

【林委員】 その学校の教育目的に応じた教科書を使うことが基本だと思います。イマージョン教育をするとのことですが、公立の学校ですること、数学と英語については違う教科書を使いたいということで理解しました。理科については、中学校129校と同じ「啓林館」の教科書を使用することで問題ないということによろしいのですか。

【大西首席指導主事】 理科についても、イマージョン授業を行う観点から学校調査会に調査いただきましたが、結果的に、今の129校と同様の教科書で教育が展開できると聞いています。

【平井委員】 水都国際高校では、セオリーオブナレッジ、TOKを使うということで、今回選んだ中学校教科書とのリンクをしっかりと考えていただきたいと思います。

セオリーオブナレッジは、日本のものとは若干異なる、世界基準で授業をするということです。その点をよく考えてほしいと思います。また、イマージョン授業について、数学と理科については扱う単位によって、英語でアプローチをして生徒に十分反映できるものと、そうでないものがあるもので、イマージョン授業を全部英語で行う授業ととらえるのか、あるいは、子どもの発達段階、到達度に応じて授業を行うのか、十分に検討いただきたいと思います。数学と理科を英語でアプローチする場合、日本の教育ではそういった例があまりないので、十分に検討いただきたいと思います。生徒の教育効果を十分に発揮できるものにしていただきたいと思います。

採決の結果、委員全員異議なく、水都国際中学校の数学では「数研出版」の教科書を、英語では「三省堂」の教科書を、その他の教科については、129校と同様の教科書を採択することを可決。

協議題第13号「普通科系高等学校の再編整備について」を上程。

水口指導部長及び柘原高等学校担当課長からの説明要旨は次のとおりである。

普通科系高等学校の再編整備について、前回の会議では、大阪教育大学との高大接続・連携について進捗状況を報告し、その後、新高校イメージ案について協議いただいた。新高校の教育目標、全体のイメージについては一定の理解を得たうえで、文系・理系の教育内容、産学協働の必要性や進路保障などについて意見をいただいた。

本日は、新高校のイメージ案について、前回いただいた意見をふまえ具体化したものを示したうえで、平成32年度に学級減を行う再編対象3校の学科編成について意見を伺いたいと考えている。なお、3校の学科編成については新高校のコンセプト・高大連携事業につながるものと考えている。

新高校のイメージ案について、前回指摘があった「グローバルな視点から様々な課題に対応できる人材」という文言を図に追加した。また、「国際交流」「留学生との交流」の文言についても左右の枠内にそれぞれ追記している。また、前回、産学協働が重要である旨の意見があったため、地域社会との連携部分に追記している。また、文系・理系の学びについて具体的に、という意見があったことから、具体的な内容を追加した。

他に前回、指摘のあった大阪教育大学の推薦枠をはじめとする進路保障に関しては、今後、大阪教育大学との接続・連携を深めていく中で、さまざまな形を検討していきたいと

考えている。

新高校と大阪教育大学との連携を充実させるために、まずは3校との連携を試行的に実施することを検討している。平成31年度は、先行実施として3校と大阪教育大学の教育協働学科、連合教職大学院とが連携することで大学と協議している。教育協働学科には3校に設置されている学科の教育内容と関連したコース・専攻があるため、比較的連携しやすいと考えている。平成32年度以降は、教育協働学科、連合教職大学院だけでなく、教育学部へ連携を広げ、新高校の学びの基礎を築きたいと考えている。

質疑の概要は次のとおりである。

【大竹委員】 新高校のイメージ案は、前回と比べわかりやすくなったと思います。

【巽委員】 文部科学省は2016年から高大接続の改革を求めるとなっており、社会に出てから活躍できる人材を養成するという意味で、新高校のイメージは、今求められているイメージに一致していると思います。地域や保護者などから注目されやすいのは、どこまで進路保障、高大接続ができるかになると思います。

7年間を見据えた教育となると、やはりカリキュラムの内容や教育方法など含めた全体的な大学との接続が求められると思いますので、その点をイメージして進めていく必要があると思います。

【柘原課長】 大阪教育大学とは入試に関することと、高大7年間を見据えた教育内容との両方の柱で、現在協議を進めています。今後もさらに協議を進めていきたいと考えています。

【山本教育長】 大阪教育大学で地域枠を設定いただくことで調整していますが、大阪市だけが地域枠とはなりませんので、先日、本市、大阪府、堺市と豊能地区の教育委員会が集まって、大阪教育大学が、来年度から地域枠を設定することを文科省へお願いにいくことについて、すべての教育委員会で了解をいただいている状況です。

【平井委員】 地域枠でも、推薦枠と、AO入試の2つの種類があります。例えばAO入試などで、個性のある生徒をとる工夫も検討してもよいと思います。

【山本教育長】 大阪教育大学と協議しているのは、地域枠は地域枠で設定しつつ、3年間の学習活動を見て、教科以外の特別活動などの実績を考慮するなど、なるべく多くの生徒を採ってもらうように工夫していきたいと思っています。もう少し具体的にになれば、またお示ししたいと思います。

【平井委員】 国立大の推薦でいいですよと、東京大は各校1名と決まっていますが、京都大は各校何名でもいいとされています。その分、特色を出した入試をしています。そういったことも十分検討されればいいと思います。

【山本教育長】 地域枠や、一定の活動を3年間みて加点することなど、いろいろなシステムをインセンティブとして検討していきますので、またご意見をお願いしたいと思います。

【平井委員】 高校3校を再編するのであれば、事務局として、どの学校、学科に中心を置こうとしているのですか。

【柘原課長】 教育系を柱に、文系の学び、理系の学び、それぞれについて新高校へつないでいくことを検討していますが、文系では、南高校の英語科を柱として引き継いでいきたいと考えています。理由としては、3校の学科のなかで最も進学率が高く、資格取得も盛んなことがあります。また、英語科ですので国際、言語などの内容を網羅しています。

理系では、西高校の情報科学科が適していると考えています。理由としては、情報科学科は専門学科であり、普通科の学びを超えたハード・ソフトのネットワーク、学び、指導のノウハウを持っていることがあります。教員を育成する学校を、新高校の柱に据えており、今後の教育に情報は欠かせないと考えています。理系の学びをリードしていくのが西高校の情報科学科になると考えています。

【平井委員】 教育系、文系、理系とありますが、3つの専門学科でいくのですか。

【柘原課長】 専門学科のなかで3つに分けることも検討しています。教育課程を組むときのバリエーションは専門学科が有利と考えていますが、またご意見いただけたらと考えています。

【林委員】 再編対象3校の学科と、大阪教育大学のコース、専攻との高大接続・連携のイメージについて説明をお願いします。

【柘原課長】 3校の設置されている学科、系列のうち、大阪教育大学のコース、専攻につながるものについて記載しています。現行の3校の学科が、平成31年度から類似の学科として、大学の教育協働学科と連携することが可能として、大阪教育大学からも意見をいただいています。実際にどう連携するかはこれから協議してまいります。また、新高校へ引き継いでいく学科について、どれがふさわしいかをご意見いただきたいと思います。3校のそれぞれの学科を縮小する必要がありますので、どの学科を残すのかご意見いただければと考えています。

【大竹委員】 文系、教育系、理系のイメージ図との相関関係が少し分かりにくいので、また改善していただければと思います。

【山本教育長】 平成32年度以降について、新しい生徒が教員養成系のコースとどう結びつくのか、もう少し具体的に示して、また説明いただきたいと思います。

【平井委員】 今後、学習指導要領が変わりますが、その点はどうするのですか。

【柘原課長】 現在のカリキュラムを前提に、現行の学習指導要領のなかで検討しています。学習指導要領の改訂後につきましては、平成34年度以降のカリキュラムにおいて検討してまいりたいと考えています。

【水口部長】 再編対象の3校のどの学科を残すのか、またご意見をいただきたいと考えています。事務局としては、南高校の英語科、西高校の情報科学科を考えています。

【山本教育長】 新高校に向けてどのように移行していくのか、また改めてわかりやすく示してもらって、ご意見をいただきたいと思います。

【水口部長】 わかりました。コンセプトを踏まえ、またもう少し丁寧に話をさせていただきたいと考えています。

【山本教育長】 さちんと新高校のコンセプトを示してもらって、再編対象の3校の残す学科が、新高校のコンセプトへ至る途中経過として合理的なものであれば、みなさんも納得すると思いますので、また改めて説明いただければと思います。

【平井委員】 資料に各校の志願倍率について記載していますが、志願倍率はどの学校でも概ねこのくらいの数値になりますので、次回は各校の偏差値帯についても記載をお願いしたいと思います。

報告第9号「大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画(案)について」を上程。

水口指導部長及び柘原高等学校担当課長からの説明要旨は次のとおりである。

平成25年11月に策定され、平成26年度から平成30年度までの5年を前期とした「大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画」が今年度最終年度を迎える。今回、後期にあたる平成31年度から平成36年度の「府市再編整備計画」の案を大阪府とともに策定したため、報告する。

これまでの経過について、平成25年8月の大阪府市統合本部会議で、経営形態の見直し検討項目、類似・重複している行政サービスの基本的方向性(案)において、本市の府への移管を前提とした「大阪府立・大阪市立高校すべてを対象とする再編整備の計画」の策

定が示され、その計画のひとつとして、平成25年11月に前期「再編整備計画」を策定した。しかしながら、平成27年5月の住民投票で府市統合が否決されたため、平成27年6月に大阪府市統合本部が廃止された。前期の「再編整備計画」は府市統合を前提に策定されたものであったため、本市高校の計画については保留となった。

今回策定する「再編整備計画」における本市の高等学校に関する記載内容について、前計画では「高等学校教育について、広域的な視点で対応する方が、より効果的・効率的であるという観点」から、市立高校の再編整備にあたっても「府と同じ考えに沿って検討する」こととされ、本市において整理が必要な学科、工業高校、定時制高校について再編整備計画に掲げ取り組むこととされていた。しかしながら、本市としては、府市統合本部の廃止や、大阪市内中心部における児童生徒の急増などの喫緊の課題に対応していく必要があるため、市内中心部に位置する普通科系高校の再編整備を優先して実施することとした。

学校の配置について、計画案では、府市あわせて8校の募集停止と本市1校の新設（水都国際高校）に関することが記載されている。西高校・南高校・扇町総合高校3校の募集停止および新高校1校開設により、2校減となる。

市がこれまで進めてきた方策ならびに今後検討すべき内容等について、普通科系高校の再編整備、公設民営学校の設置、全日制の工業高校、定時制高校があるが、全日制の工業高校、定時制高校については、今後、教育委員会での協議等をふまえ進めていきたいと考えている。計画案については、今後、8月30日の大阪府教育委員会会議で議決される予定となっている。

質疑の概要は次のとおりである。

【林委員】 大阪市の高校に関しては、今後どうしていくのか議論し、考えなければならない時期に来ていると思います。この計画は大阪府全体の計画なので、子どもの減少に従って学校数を減少させ、その一部を大阪市も担うという理解でよいですか。

【柘原高等学校教育担当課長】 はい。

【林委員】 それぞれの学校の特色も考えながら今後どうしていくのか考えていきたいと思っています。

報告第10号「校長公募にかかる第1次選考の合格者の決定について」を上程。

井上教務部長からの説明要旨は次のとおりである。

受験者数・合格者数について、小・中学校共通では、内外併せて計312名、同じく高等学校で計25名、幼稚園で11名、合計348名が受験した。

今回の第1次選考では、最終合格者数を勘案して、小・中学校共通で内外併せて計200名、同じく高等学校では計7名、幼稚園では9名、合計216名を合格とする。

今後のスケジュールについて、第2次選考の集団討論は、8月27日、28日、30日、9月3日で実施し、第3次選考の個人面接は10月上旬を予定している。

質疑の概要は次のとおりである。

【平井委員】 年齢に関わらず受験はできるのですか。

【井上教務部長】 はい。

採決の結果、委員全員異議なく、原案どおり可決。

(5) 山本教育長より閉会を宣告

会議録署名者

教育委員会教育長

教育委員会委員
